

帯広三条高生にインクルーシブ教育講義

身の回りに関心持って

帯広養護 ボッチャ体験も



から、教育・スポーツの分野を探究する生徒の受け入れを帯広養護に打診し、今回の講義が実現。インクルーシブ教育の実際を学び、職業選択への意欲醸成を目的としている。

施。世の中や身の回りのことに関心を持ち、自ら考えて行動する大切さを伝えた。

【帯広発】帯広養護学校（業天菅久校長）は帯広三条高校（台浦英則校長）の生徒に対し、同校でインクルーシブ教育の実際を知る機会を提供した。帯広養護の教員による講義やアダプテッドスポーツの一つ「ボッチャ」の体験を実

帯広養護の業天校長は、教員のなり手不足の解消を目指し、管内校長間で情報共有を図ってきた。道教委の道CLASSプロジェクトの指定を受けている帯広三条高は、本年度から生徒の進路希望に応じた類型別探究活動を進めていること

この日、福祉や教育に関わる職業を目指す帯広三条高2年生約50人が来校。帯広養護で教務部長を務める西山雄基教諭が講義を担当した。

西山教諭は、特別支援学級在籍者数の推移を示し、平成23年から令和3年にかけて約2倍に増加していることを解説。多様性に対する考えが広まる中「つながる」「一緒に生活する」といった共生社会の大切さを

説いた。

老若男女、障がいの有無を問わず参加できるアダプテッドスポーツを紹介した。目標とするボールを目がけて、赤・青のボールを投げて近づける競技「ボッチャ」を実際に体験し写真

Ⅱ。生徒たちはアイマスクの着用や利き手の固定、車いすの使用によって身体障がい者の日常を体感しながら臨んだ。

西山教諭は「不幸ではなく不便」「理解されないことよりも、関心を持たれな

いことがつらい」など当事者の声を紹介し「身の回りのことに関心を持ち、自分なりに考えていくことが大切」「夢や思いを育てながら学生生活を過ごしてほしい」と伝えた。

業天校長は生徒たちの様

子を見守り「世の中の様々なことに目を向けて、自然と入ってくる情報だけではなく、自ら行動するきっかけになれば」と期待。「今後管内高校等と連携しながら、今回のような機会を設けられたら」と話した。